

---

# 君が好き / 沖神 / 3Z

いとり

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

君が好き／沖神／3Z

### 【コード】

N4387I

### 【作者名】

いとり

### 【あらすじ】

君が愛おしいから、俺は欲張りになる。…ねえ、答えを聞かせてよ。

放課後の、薄暗くなった図書室。

片隅で本棚の整理をしていた彼女の前に手をついて、口付けをする。

小刻みに震えている赤い唇。

それを止めるかの様に、自分のと重ね合わせる。

淡い桃色の髪に手を掛け、滑らせた。

時節、隙間から漏れる息と声。

…可愛い。

そつと唇を離すと、彼女が真っ赤な顔をして、

「……ッこんな所で、何するアル……。」

まだ息が整っていないながら必死にそう言った。

「誰も気付きやせんよ。神楽が声を出さなければですけどねィ。」

3

「……意地悪。」

彼女が愛おしくて仕方ない。

だから触れたいと思うし、触れて自分がどんなに彼女を想っているかも伝えたい。

でも、それだけじゃ物足りないから、

俺は欲張りになる。

「なあ、俺の事…、好き？」

聞いた瞬間、真っ赤になる彼女の顔。

「なっ…何でそんな事、言わなきゃいけないネ。」

「いいから。」

細くて小さな彼女を、そっと抱き寄せて、耳元で囁く。

「答えて下せイ…。」

腕の中で微かに反応する彼女。

そして決心したのか、顔を上げ碧い大きな目で俺を捉えた。

「す……ッ。」

ますます赤くなっていく、彼女の顔。

「すッ……す、す……。」

ぎゅっと目を瞑った、彼女の一言。

「……………酔昆布食べたいアル!!」

…あ。逃げた。

「ほら、さっさと帰って駄菓子屋行くヨ! 遅いと銀ちゃん心配するネ!」

腕からスルリと抜けて、彼女は廊下に出て行った。

肝心な言葉は聞けなかったけど、顔を真っ赤にして、一生懸命に気

持ちを伝えようとしてくれたから、

…今日は勘弁してやりましょ。

でも、いつか必ず言わせてやる。

そう思って、愛しい彼女の後ろ姿を追い掛けた。

君が好き

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4387i/>

---

君が好き/沖神/3Z

2010年10月15日00時38分発行